

言語発達障害学

[講義] 第3学年 前期 必修 2単位

《担当者名》○小林健史 kobaken@hoku-iryo-u.ac.jp
橋本竜作 辻村礼央奈

【概要】

言語発達障害学 で学んだ、特異的言語発達障害、限局性学習障害、注意欠如/多動性障害、脳性麻痺、自閉症スペクトラム障害などの言語発達を阻害する要因と言語発達段階を踏まえた、言語・コミュニケーションの支援法について知見を深める。

【学修目標】

〔一般目標〕

発達段階や障害特性に応じた言語発達障害児者の支援法について理解する。

〔行動目標〕

1. 言語発達段階に即した支援法について説明できる。
2. 障害に応じた支援（TEACCH、PECS、AAC、摂食機能療法など）の基本について説明できる。
3. 言語発達障害児者の評価報告書を作成できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	ガイダンス 言語発達段階に即した支援	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法について理解する。 前言語期、語彙獲得期、幼児期、学童期の具体的な支援の方法について学ぶ。	小林健史
4) 5	自閉症スペクトラム障害の支援	TEACCH、PECS、語用論的アプローチについて学ぶ。	小林健史
6) 7	脳性麻痺の支援	AAC、小児の摂食機能療法の基本について学ぶ。	小林健史
8	注意欠如/多動性障害の支援	神経心理学的背景と支援について学ぶ。	橋本竜作
9) 10	限局性学習障害の支援	読み書き障害の背景と支援について学ぶ。	橋本竜作
11) 12	地域支援	地域における言語聴覚士（専門家）の役割、保護者への支援、地域連携について学ぶ。	辻村礼央奈
13) 14	報告書の書き方	報告書の書き方について学ぶ。	小林健史
15	まとめ	まとめのテストを通じて知識の確認を行う。	小林健史 橋本竜作 辻村礼央奈

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験80% 小テスト20%

【教科書】

深浦順一 他 編 「言語発達障害学 第3版」 医学書院 2021年

【参考書】

石田宏代 他 編 「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」 医歯薬出版 2016年
大伴潔 他 編 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援」 学苑社 2019年
大伴潔 他 編 「学齢期の言語発達支援」 学苑社 2018年
大伴潔 他 編 「特別支援教育における言語・コミュニケーションに困難がある子どもの理解と支援」 学苑社 2011年
大石敬子 田中裕美子 編 「言語聴覚士のための 事例で学ぶことばの発達障害」 医歯薬出版 2014年
内山千鶴子 他 編 「新 言語聴覚療法シリーズ 言語発達障害」 建帛社 2024年
石坂郁代 他 編 「最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学」 医歯薬出版株式会社 2024年
田中裕美子 編 「レイトトーカーの理解と支援」 学苑社 2023年

【備考】

適宜、資料を配付する。

【学修の準備】

- ・ 予習として、講義内容を確認し言語発達学、言語発達障害学 の資料および教科書を復習し、重要な内容を覚えて講義に臨むこと。（80分）
- ・ 復習として、言語発達障害学演習で学んだ評価法と関連づけて解釈を深めるよう学習すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史（言語聴覚士）、橋本竜作（公認心理師、臨床発達心理士）、辻村礼央奈（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、療育機関での臨床経験を活かし、言語発達障害児の指導法について講義する。